

「自然と環境の保全是足元から！」

No.17

おしーおしー
ニースレター

2011 秋

02

自主事業の活動紹介

03

受託事業の活動紹介

04

平成 23 年 4 月 - 9 月

OEC 活動歴

/OEC からの

お知らせ



ポイ捨てやゴミを大量に出すことを見直して欲しいよ！

毎年、地域の子供たちが「チュラカーギ作戦」でゴミ拾いをしてくれるけど、それでもゴミは流れつくばかりだ。

すごい量のゴミだ...

国場川右岸河川敷の10年前の様子だそうよ。



OEC コラム



「みは元から断たなければ
なくならない」と、水辺の自然と環境の保護活動を行うおきなわ環境クラブ(OEC)は確信している。

それでは「みを断つには?」環境教育、『つまり環境への認識を深めること』こそが最善の方策だとOECは考えている。

国場川の河口岸には流域からの漂着ごみが、いつも、さながら展示場の様相だ。河口は川と流域を写す『かがみ』と呼ばれる。国場川と饒波川の流域に住む人、生業を営む人、そして利用(通行)する人たちまで含め、流域で行われるさまざまなお私たち一人ひとりの活動・行動の結果が、河口の『漫湖』に現れる。

漫湖河岸の清掃活動は、これまで数多く開催され、多くの人たちが参加してきた。そしてジョギングや散策で、毎日数百人の市民がこれらのごみを見ている。しかし、一向に減らない。OECは、河岸における植樹やごみの組成を調べ、これらの活動を広く知らせることで、より『環境への認識』をさらに深めて行きたい。

会長 下地邦輝

マンローンのごまき

今年もあつという間に残すとこの2ヶ月となり、最近はずっかり朝晩涼しくなってきました。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

今年は台風が本当に多い年でした。おかげで、毎年恒例の県庁サガリバナ観賞会は延期となり、開催が遅れています。

しかし、現在は少しずつ葉も増えて房も付き始め、一部には開花も見られています。観賞会が開催できる運びとなりました。新聞やホームページで告知しますので、チェックして下さいね。

さて、今号では、四月から九月までに実施してきた活動(主に啓発活動)をたくさん紹介いたします。

また、毎年出展しているイベントに、今年も参加しますので、裏紙の日程をチェックして是非、皆さんお誘い合わせのうえ遊びにいらして下さいね。お待ちしております。



足元には花が散っていました。



台風2号後の県庁サガリバナ房の様子 H23.9.2



国場川河口域(右岸)河川敷
サガリバナ海浜植物
緑化活動

グンバイヒルガオの密生に変化



7/9(土)第14回ワークショップ

「サガリバナ」お手入れ(緑化活動)のために試行錯誤で始まった海浜植物の植栽プロジェクトは、去る五月二十一日の第十三回ワークショップで百メートルに達しています。

この活動は、身近な水辺環境について知る「感じる」「学ぶ」ことを一緒になって共有する場となること、そして地域にその「気づき」の根が広がることを目的に行なっています。そしてゆくゆくは、サガリバナ並木にて観賞会が開けることを目標に、皆さんと活動を続けています。

一年半前に植栽した区間では、すでにグンバイヒルガオが定着しており、花も見られます。他には、ムオモトや、ボタンボウフウなど植栽してから約六ヶ月で順調に花を咲かせ、種もついています。参加者の皆さんと一緒に、ギンネム株の根切りと頻繁に芽生えの抜き取りを心がけて行なった効果が表れ始めているものだと思います。

現在は、水門横を中心に、密生している

グンバイヒルガオの群落で、「まめに草取り(主にギンネムやチガヤ)をした区域と、しなかつた対象区域の比較を行いながら、草取りのタイミングについて試行錯誤誤を続けています。

ホームページのブログに、活動の様子を毎回アップしていますので、是非、チェックしてみてくださいね！

平成二三年度
国場「夜のサガリバナ観賞会」



国場の概要について解説中

毎年恒例の国場地区で、七月二日(土)に夜のサガリバナ観賞会が行われました。

「ガイド付きツアー」が紹介された事もあり、当日は五十名を超すほどの大盛況となりました。

始めに、ガイドから、事務所から見えるサキシマスオウノキの下で、戦前の国場地区の様子と、戦後、国場川の環境整備(埋め立て)により、希少な水辺植物や生きものが失われてしまった背景について、解説がありました。

サガリバナの観察では、嘉数アパート前の白色のサガリバナと、大嶺さんお宅の樹齢四十数年を超えるピンク色のサガリバナを觀賞しました。見事な咲きっぷりに、参加

者からは、「来てよかった!」、「立派なサガリバナに感動した」など、たくさんの感激の言葉がありました。今年は開花ピークと重なった為、大満足の観賞会で、無事に終わることができました。

大嶺さん解説中(真ん中)



風に揺られ甘い芳香が充滿

阪南大学ゼミ学習
ラムサール条約登録湿地「漫湖」
環境問題(総合学習)プログラム

学内のゼミ大会に向け、九月六日に、阪南大学の学生が漫湖にきました。

学生たちは、関西とは異なるマングローブなど沖繩の水環境を見ることで、改めて自分自身の足元の自然と環境を見つめ直すことが目的です。



漫湖水鳥・湿地センター前にて記念写真

前半は、漫湖水鳥湿地センター二階で沖繩の水環境「や、漫湖の自然と環境」について下地会長から講話がありました。

昼食後は、環境簡易調査をおこないまし

ある一定範囲のゴミをカウント中



パケットで水の汚濁を検査中

た。国場川左岸の河川敷における「ゴミ調査」では、上流から漂着したゴミがマングローブの根元に絡みついている様子を見て、地元の人々がポイ捨てしている現状にカルチャーショックを受けた様子でした。

「水質調査」では、国場川流域の四箇所の橋下から水を採取し、各地点の汚濁を比較しました。CODパケットや透視度計などを使い、自分達で記録してグラフ化しました。

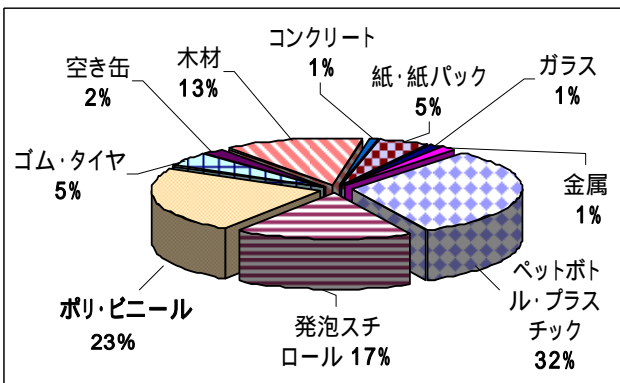


図1. 漫湖南岸に流れ着くゴミの組成(H23.9.6)
3回調査した結果、ゴミの総数の平均は140個/10m

濁度計やバックテスト(COD)の結果では、生活排水が流れる、「水鳥湿地センター横(排水溝)」で採取した水の汚れが一番目立つ結果となりました。

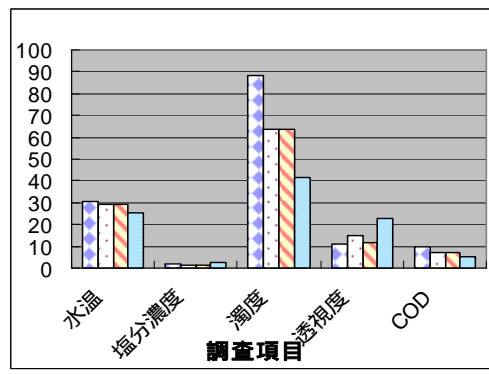


図2. 漫湖の水質簡易測定の結果(H23.9.6)

■ 水鳥湿地センター横(排水溝) ■ 真玉橋 ■ 石火矢橋 ■ 那覇大橋の4ヶ所から水を採取し調査

最後は、質疑応答の時間。学生は事前疑問を各自まとめてきており、大変熱心に講師質問をしていました。今後は、国場に調べた調査結果を大学に持ち帰り、改めて整理・検証し、一人一人ができる身近な事を意見交換しながら、来年のプレゼン発表に向けて作り上げていくことです。



質疑応答の様子

研究者 上田絵理奈()

OEC 受託事業の活動紹介 (H23.4~9月)

沖縄県地域環境センターへ野外観察会
親子で学ぶ
夏休み自然観察会+宿題教室



胎生種子っておもしろい形をしているね

去る八月七日

(日)、宮古島市の川満漁港、ウブカーマングローブにて、標題の観察会とアクアプランター(鉢植え)作り、そして漂着物工作教室やワークシ

ト式の宿題教室を行いました。

最初に、ウブカーマングローブ遊歩道で行われたマングローブ観察では、ガイドからここで見られる各ヒルギの違いが解説され、それぞれ異なる時期に花や胎生種子をつける話がありました。特に、宮古島が自然分布の北限となっている希少なヒルギ「タマシ」については、大切にしなければならぬという話で、子供たちも熱心に聞き入っていました。

後半の「アクアプランター」を作るグループでは、ハサミを使って調節するのが少し難しくしましたが、参加者は親子で協力して真剣に取り組んでいました。

次に漂着物の工作「グループでは、海岸に漂着した浮き球を使って貯金箱を作りました。参加者は浮き球に目や鼻や口を付けて、カエルのようにも見えるかわいらしい貯金箱を楽しそうに作っていました。

また、マングローブ観察について「ワーク

シートに記入するグループでは、プラスチック水槽にとってきたマングローブに棲むカニを観察したり、とってきた胎生種子を観察しながら絵を描きました。

参加者は、実際にマングローブの葉の裏が塩辛いかねてみたこと、胎生種子に触れたこと、また工作をしたことが印象的だったようで、親子で楽しく学習できた様子でした。次は海の中からも観察したいという子供もあり、マングローブやそこで生きる生き物についての関心が高まりました。



ここにはこんなカニが棲んでいるよ

沖縄県地域環境センターへ出前講座 泡瀬干潟の生き物を調べよう

当日は時間

が限られていることから、学校で干潟がどういった場所か、どのような生きものが棲んでいるのか、について、子供たちに事前学習をしてもらい、去る九月八日(木)、泡瀬干潟にて沖縄市立比屋根小学校三年生(二三三名)の生徒を対



ガイドからの導入解説

象に、ガイド四名(琉球大学教育学部特命研究者、那覇市環境保全課、沖縄自然環境ファンクラブ、沖縄工科大学(ガイド)が干潟を案内しました。

当日の観察地は、主に礫、粗砂の中に若盤、転石が点在する潮間帯上部と、細砂を主体とする潮間帯下部で、手前の潮間帯上部ではカニやヤドリガキがたくさん見られました。転石をひっくり返すと、石のくぼみにびっしりとついたイボウミナヤカシクなどの貝に、子供たちは歓声を上げていました。潮間帯下部に近づくと、貝類やナマコタコなどをたくさん見つけることが出来ました。ガイドは、子供たちが見つけたナマコを手に乗せ、放っておくと軟らかいのに叩くと固くなる事や、いじめるとういそうめんのような内臓を出して身を守ることを実際にやってみせました。子供たちにとっては衝撃の事実だった様子で、大騒ぎをしていました。

最後は、ガイドから干潟にはサンゴや小石や泥等いろいろな違いがあり、棲んでいる生き物も違います。このような豊かな自然が身近にあるという事を感じて欲しいです。学校に戻って今日の観察結果をまとめる時には、どんな場所にはどんな生物がいたか考えながら作るといいですね。」と、まとめる際のポイントを教えてもらい、観察会は楽しく終了しました。



どんな生き物がいる??

研究者 立田亜由美()

自主事業（環境学習・エコツアー等の受入れ）

- 5月～7月 第13回～14回 「水辺植物(サガリバナ・海浜植物)と一緒に再生させよう！」 場所:国場川河口域(右岸)河川敷
- 7/2 平成23年度 国場「夜のサガリバナ観賞会」 場所:那覇市国場周辺、観賞会先:大嶺さんお宅
- 8/7 NECソフト沖縄株式会社 「親子で体験！夏休みの自由研究“身近にある生物多様性について探ってみよう！”」
場所:環境省 漫湖水鳥・湿地センター
- 9/1 国際基督教大学(ICU)沖縄スタディーツアー受入れ 場所:環境省 漫湖水鳥・湿地センター
- 9/6 阪南大学 西本ゼミ 「ラムサール条約登録湿地 漫湖から見える環境問題(総合学習)プログラム」
場所:環境省 漫湖水鳥・湿地センター

JICA 研修

- 5/16～7/29 集団研修 熱帯・亜熱帯地域エコツーリズム企画・運営
- 8/1～9/16 地域別研修 持続可能な観光開発(大洋州地域)
- 9/22～11/4 地域別研修 多様化による沿岸水産資源の持続性確保(沖縄研修)

協議会・委員会

- 6/22 漫湖自然環境連絡協議会 平成23年度総会に出席 場所:環境省 漫湖水鳥・湿地センター
- 7/7 沖縄県緑化推進委員会那覇支部 平成23年度第1回常任委員会に出席 場所:那覇市緑化センター

OEC からのお知らせ

OEC 今後の予定

自主事業

国場川右岸河川敷
サガリバナと海浜植物のお手入れワークショップ
(二か月に一回、第二土曜を予定)
開花状況にもよります。

受託事業

沖縄県地域環境センター
出前講座 八回
地域環境セミナー 一回
ニゴモエクラブ壁新聞パネル展(県庁一階ロビー)
詳しい活動は、センターホームページを
「ご覧ください」
電話 〇九八・八六六・二六三八
<http://www.ji-okinawa.net/people/kankyo-center/>

行事参加ブース出展

JICA 沖縄 研修受入事業
多様化による沿岸水産資源の持続性確保(パナマ・ラゴーン)研修
中南米地域 熱帯・亜熱帯地域におけるエコツーリズム企画・運営
21世紀のための日本・シンガポール・トルネーディング・プログラム
「JSPD21(沖縄研修)」
持続可能な観光開発(カリコム諸国)

JICA 国際協力 交流フナエティバルION
十一月二十六日(土)、二十七日(日)
おきなわアジエンタに県民環境フナエ南城市
十一月二十日(日)
第二十七回 国場川水あしび
十二月十日(土)

詳しくは下記、当クラブ連絡先まで
お問い合わせ下さい。

募集

国場川右岸河川敷
サガリバナと海浜植物の緑化活動

この活動は、サガリバナを元気にするために、下草刈り作業や追肥作業をおこなっています。また新たに海浜植物の植栽も加わり活動が広がっています。沖縄の水辺環境の再生に参加しませんか？

日程

- 第十六回 十一月十二日(土)
- 第十七回 一月十四日(土)
- 第十八回 三月十日(土)

時間【午前10時～12時】
日程が変更になる場合もありますので、詳しくはお問合せ下さい。

用具はOECで用意いたします。

作業区域内では、グンバイヒルガオの花がきれいに咲いています。



お手入れの甲斐があってか、作業区域内のサガリバナに一部開花した形跡が見られました！(嬉)

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ <http://www.npo-oec.com/>

自然と環境の保全是足元から！

おきなわ環境クラブ(OEC)は、水辺環境の環境保全活動をきっかけに、地域の自然保護や環境保全の気づきが広がることを目的とした、子どもと大人のNPO/NGO 団体です。

〒902-0075 沖縄県那覇市国場 370-107

TEL:098-833-9493 FAX:098-833-9473

e-mail :kokuba@npo-oec.com

